

9・23全国集会 基調報告

【1】汚染水放出強行の岸田倒せ！

まず冒頭、岸田政権が強行した福島第一原発事故放射能汚染水の海洋放出の歴史的暴挙を満腔の怒りで弾劾する！ 事故から10年以上たっても格納容器内の核燃料デブリを1グラムすら取り出せない岸田政権が、福島を踏みにじり、原発＝核政策の全面推進に公然と舵を切り、「合意なき放出は行わない」という漁民との「約束」も反故にして放出を強行したのだ。しかも、岸田はデブリに直接接触した前代未聞の汚染水の放出を開き直った上に、逆に対中国の排外主義宣伝を煽り立て、「汚染水」と呼ぶこと自体を「敵国に通じる非国民」と言わんばかりのキャンペーンを行っている。極右連中は「日本の魚を食べて中国に勝とう」などと騒ぎ立てている。断じて許すことはできない。対中国の排外主義の大宣伝は、戦争に突き進む岸田の本性だ。「汚染水放出即時中止」「改憲・戦争の岸田打倒」を徹底的に訴え、本日のデモを闘おう。

いまひとつ、最高裁判所は9月4日、辺野古新基地建設の軟弱地盤工事をめぐる沖縄県の計画変更申請不承認に対する国交省の取り消し「裁決」と是正指示のいずれも正当化し、県の訴えを却下した。くり返し示されてきた基地建設絶対反対の沖縄県民の思いをどこまで踏みにじるのか！ 沖縄防衛局（防衛省）が同じ政府内の国交省に申し立てるという茶番、「私人なしすまし」と称される行政不服審査制度の悪用を平然と合理化したのだ。絶対に許すことはできない。岸田は沖縄の軍事要塞化を推し進め、空港・港湾の軍事使用のための整備・拡張を、「振興策」のための沖縄関係予算を使って行うことまで狙っている。どれだけ愚弄するのか！

だが、福島でも沖縄でも不屈の闘いがこの岸田の戦争・基地・核政策に立ちはだかっている。汚染水放出の暴挙に対しても、3・11反原発福島行動や吉沢正巳さんらを先頭に、全国から大行進の仲間がかけつけ浪江現地で怒りの闘争に立った。労働者人民の怒りは沸騰している。岸田に対する怒りを燃え上がらせ、本日の闘いの爆発をかちとろう。

【2】「ウクライナ戦争ただちにやめろ！

改憲・大軍拡・戦争の岸田倒せ！」の大反戦デモを！

(1) ウクライナ戦争推進、殺傷兵器輸出と参戦に突き進む岸田

本日の闘いは第一に、激化・拡大するウクライナ戦争と岸田政権の参戦国化に対して、「ウクライナ戦争ただちにやめろ」「ウクライナへの軍事支援をやめろ」「戦争推進の岸田打倒」を訴え、巨大な反戦闘争をたたきつけることである。

ウクライナ戦争は徹頭徹尾、「米国の対ロシアの帝国主義戦争」である。NATO東方拡大と数年がかりの準備で戦争を引き起こし激化・拡大させている張本人である米政権は、ウ

クライナを地獄の戦場にたたきこみながら、ロシア・プーチン体制を弱体化・崩壊させるまで戦争を継続させようとしている。米国家安保戦略で公言した「ロシアを抑えつけ、中国を打ち負かす」戦争として不可逆的に推進しているのである。

5月G7広島サミットを転換点として、米欧の軍事支援のより一層の加速を背景にして始まった大規模反転攻勢は、その本質をさらにむき出しにした。米バイデン政権はクラスター弾に続いて、ついに劣化ウラン弾の投入も決定した。F16戦闘機供与も始まり、訓練も進められている。ロシア領内を射程圏内とする長射程ミサイルの供与にも踏み込む。ウクライナ軍はすでにモスクワを標的にした無人機攻撃もくり返し展開している。あらゆる歯止めを取り払い、大量の注ぎ込んで、対ロシアの戦争を泥沼的に激化させているのだ。

私たちは、帝国主義者の言う「平和」「国際秩序」「法の支配」を、労働者の怒りでぶっ飛ばさなければならない。米国の歴代政府が「平和」の名で、朝鮮、ベトナム、アフガン・イラクをはじめ、一体どれだけの侵略戦争をやってきたのか。しかも、「トンキン湾事件」や「大量破壊兵器の保有」など戦争目的をでっち上げて侵略戦争をやってきたのが米国ではないか（かつて恐るべき中国侵略戦争を展開した日本帝国主義以来一貫している）。

その上で、いま始まっている戦争は、その延長ではない破滅的な世界戦争の発端である。戦後世界体制の基軸国であった米国の歴史的没落が一線をこえ、ついに中国やロシアという世界支配の巨大な破綻点に（特に米支配の延命政策の結果として強大化・大国化してきた中国に対して）攻め込み、その持てる軍事力を全面的に投入して支配を転覆していく戦争に突っ込んでいく以外に帝国主義的延命の道を失ったのだ。破産する米国の世界支配、資本主義・帝国主義（一握りの支配者連中）の階級支配の延命のために、労働者人民を世界戦争・核戦争にたたきこんでいく。こんな戦争を阻止し、資本主義・帝国主義の支配体制こそ打倒しなければならない。

何よりも、岸田政権がいまや全面的な戦争推進者として急速に舵をきっている。G7議長国としてウクライナのゼレンスキー大統領を初めてG7サミットに招き、クラスター弾・劣化ウラン弾や戦闘機を投入した「反転攻勢」＝大戦争へのゴーサインを出し、7月にはNATO首脳会議に出席して本格的に軍事同盟の一角として登場した。9月9日には林外相（当時）がウクライナを訪問し、二国間協定締結への交渉開始を確認し、全面的な軍事支援に踏み込んでいこうとしている。8月後半には防衛装備品輸出ルールの見直しのための与党協議が前倒しで再開され、政府は「殺傷兵器の輸出は可能」との見解を表明した。

戦後憲法の建前も踏み破る岸田の武器輸出への踏み込み、戦争推進国・実質的参戦国としての登場との闘い、この日本における反戦闘争は、ウクライナ反戦闘争の重大な柱だ。右翼連中の「日本で反戦を言って何の意味があるんだ」という軽薄な叫び（嘆き）とは対極に、岸田を倒すことがウクライナ戦争―世界戦争を止める決定的な力になる。本日の闘いを突破口に、国会・首相官邸にくり返し大デモをたたきつけ、包囲し打倒する大闘争をつくり出そう。

(2) 米日の中国侵略戦争阻止！ 改憲・大軍拡粉碎！

第二に、9月内閣改造をもってより一層の大軍拡と戦争への道を突き進む岸田政権に大反撃をたたきつけ、今秋の岸田打倒の反戦闘争の巨大なうねりの開始とすることである。

先日発表された24年度防衛予算の概算要求は、昨年末の安保3文書のもとで歴史的な大軍拡予算であった23年度の6・8兆円をはるかに上回り、過去最高の7兆7385億円だ。

「敵基地攻撃能力」（「反撃能力」）の本格的導入に向けたミサイル開発やイージス・システム搭載艦建造、石垣駐屯地や那覇駐屯地などの司令部地下化と増強、空自新田原基地（宮崎県）へのF35B飛行隊配備、陸海空自衛隊の常設統合司令部創設などが盛り込まれ、陸自宮古島駐屯地への電子戦部隊配備、湯布院駐屯地（大分県）への地対艦ミサイル連隊発足などの新計画も次々と出されてきている。勝連・与那国へのミサイル部隊配備、佐賀空港への陸自オスプレイ配備・駐屯地建設を含めて、沖縄・九州を中心に、すさまじい戦争態勢を構築しようとしている。あらためてこの大軍拡予算を、今秋から来年通常国会にかけての闘いで、絶対に粉碎しなければならない。

言うまでもなくこれはすべて中国侵略戦争へ向けた大軍拡である。麻生の台湾有事に「戦う覚悟」「抑止力は使う」発言にそれは示されている。米軍はすでに米本土での訓練に台湾軍をくり返し招き、大規模部隊による共同訓練も計画している。10月に行われようとしている陸自と米海兵隊の国内最大規模の共同訓練「レゾリュート・ドラゴン23」は、米海兵隊の対中国作戦計画「遠征前進基地作戦（EABO）」と陸自の「領域横断作戦」の連携を柱に、初めて南西諸島や九州などで実動訓練を大規模に展開する。陸自オスプレイが新石垣空港を使って石垣島へ初飛来する訓練も行われようとしている。

EABOとは、海兵隊の小規模部隊で南西諸島の島々を移動しながら次々と攻撃拠点を築き、中国の艦船、航空機、ミサイル基地を攻撃・撃退して制海権を確保した上で、横須賀を拠点とする米空母打撃群など主力部隊を投入して中国の中枢部を攻撃するという作戦計画だ。沖縄―南西諸島も台湾も戦場にたたき込みながら、中国全土を火の海にする恐るべき計画なのだ。日本版海兵隊の陸自水陸機動団を中心に自衛隊も主力として計画に組み込まれており、くり返し訓練が行われ、実戦的にエスカレートしている。

進行している事態は、「中国軍の脅威への対処」などでは断じてない。米日こそがその世界支配のために中国をたたきつぶすすさまじい大戦争を構えているのだ。絶対に許すことはできない。

絶望的危機を深めながら戦争での突破に唯一の延命をかける岸田、ウクライナ戦争の推進国として登場し中国侵略戦争に突き進む岸田、日米安保を戦争同盟として強化し改憲・大軍拡を推し進める岸田を、首都を揺るがす反戦デモで打倒しよう。

【3】全国で反戦闘争を巻き起こし、岸田打倒の歴史的な大闘争へ！

(1) 全学連・青年を先頭に実力で戦争を阻む闘いを

日本の階級闘争は、いま本格的爆発へ向かって歴史的転換点を迎えている。私たちは、2月三里塚強制執行決戦、4月杉並選挙闘争、5月広島サミット決戦、そして8・6広島原爆ドーム前での激闘や汚染水放出阻止闘争などを通して、そのことを実感をもってつかみとってきた。全学連を先頭にした実力闘争が、現実の戦争への突入に対して全力で立ち向かい、その狙いを根幹で打ち破り、労働者人民の怒りの結集軸となっている。

全学連・青年の大隊列を先頭にして、10・1横須賀闘争から10・8三里塚全国闘争、東京一全国で反戦闘争を爆発させ、その柱として10・21国際反戦デー・新宿反戦デモを「反戦の渦で新宿を占拠する」大闘争として爆発させよう。

(2) 全国に大行進の旗をたて反戦デモに立とう

「絶対反戦」を貫いて勝利した杉並選挙決戦の地平から、9月2日に東京での連続反戦デモの皮切りとして西荻デモを闘い、9日に大行進すぎなみを結成した。原水禁運動の発祥の地であり、国家権力や右翼の弾圧・妨害を打ち破って闘いを切り開いてきた杉並を、反戦の拠点として立ち立てよう。杉並を拠点に、全国に改憲・戦争阻止！大行進を建設しよう。

新自由主義と戦争に絶対反対を貫き闘ってきた動労千葉・関西生コン支部・港合同の3労組が呼びかけ、全学連を先頭にして体を張って戦争を阻止する闘いを実践してきた改憲・戦争阻止！大行進運動には、国家主義・排外主義の大宣伝や「自衛戦争論」と真正面から対決し、自国政府と対決する反戦闘争を本格的に爆発させていく展望があふれている。全国に大行進の旗をたて、各地で反戦闘争を巻き起こし、仲間を組織し、首都・東京へ攻め上ろう。

(3) 反戦闘争を徹底的に爆発させ、すべての力を11・19集会へ

最後に、本日の闘いから今秋反戦闘争を爆発させ、その力をすべて11・19日比谷野音に結集しよう。本日を数倍する岸田打倒の大闘争を絶対に実現しよう。

改憲攻撃としてあった国鉄分割・民営化攻撃と真っ向対決してきた動労千葉、戦時下弾圧と闘う関西生コン支部など3労組の存在は、この世界戦争の時代に「反戦闘争を闘う労働運動」の力強く生き生きとした姿を全労働者に示している。とりわけ、8月日米韓首脳会談などで急加速する対北朝鮮・対中国の戦争態勢—3カ国軍事同盟化に対して、日米韓労働者の国際連帯を切り開いてきた11月集会の意義は測り知れない。「国際反戦大集会」として11・19の日比谷野音を埋め尽くす大結集をかちとろう。

本日の集会・デモから、東京一全国で反戦デモを徹底的に巻き起こし、岸田打倒の怒りの声で席卷しよう。首相官邸へ向かう本日のデモを、怒りを燃え上がらせ、岸田打倒の戦闘的大デモとしてかちとろう。

以上